

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	平成21年10月	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目13番12-205
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の支援を行い、入居者様と職員が共に笑顔あり、笑い声が絶えないアットホームな雰囲気に満たされ、ゆっくり安らげる安心の生活が継続出来、地域に密着した「家」作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療機関の院長による定期的な診察をはじめ、診療の合間をみてのホーム訪問は入居者の心を支え、笑顔や貼り合いになっている。定期的に開催されている運営推進会議には毎回10名前後の入居者が参加し、思いや要望を自由に述べるなど飾らないオープンな会であることが議事録からも窺える。法人の社会保険労務士は外部評価にも携わり専門の立場から助言やアドバイスを送るなど円滑なホーム運営に活かされている。経験豊かな職員と入居者への尊厳の思いと介護現場への意欲あふれる若い職員のバランス良い配置は、いくつになっても趣味やおしゃれを楽しまれたり、台所で手際よく洗いのや片づけに取組まれる笑顔の入居者を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域との関係性を重視した理念を大切にしている。	理念は玄関やリビングをはじめ、事務所・カーデックスなど職員がケアの中で意識付けとなる場所に掲示や添付している。法人理事長も参加しての母体医院と合同で開催される会議の中で、方針や理念に沿ったケアや地域に開かれたホームについて思いを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として商店街の夏祭りに企画参加し地域の活性化に一役を担ったりホーム主催の花見・餅つき等に参加を得近隣の独居高齢者へ餅の配布をしたり行事等の参加を行なっている。	地元商店街の夏まつりに企画の段階より法人代表が参加し、当日、職員が出店で物品販売に協力する中入居者も地域の一員として参加している。ホーム主催の餅つき大会でのつきたて餅を、近隣の独居高齢者へ配布したり、毎回、地域の方が広報誌を入居者宛に届けてくれるなど交流が図られている。又、幼稚園児の訪問や高校生の体験学習の受け入れは入居者の生活に張りや喜びを提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で行政や包括支援センター・区長・ご家族様・入居者様も参加して近況報告や意見要望を聞き委員との質疑応答を行なって日常の中で改善すべき事項を提示しサービス向上に反映させている。	管理者は家族の運営推進会議への参加を面会時に呼びかけたり、行政や地域代表者のもとを直接訪れ依頼している。当日は両ユニットより多くの入居者が参加し、自身のことばで意見や要望を話されるなど入居者の自信にも繋がっている。	参加されなかった家族へ議事録を開示することで、共有を図り参加のきっかけとなることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加により学び、対応が必要な方があれば随時職員に説明アドバイスを行い支援に結び付けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧かつ十分な説明をする余裕がなく重要点のみ説明又不安、疑問点を尋ね理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や態度から思いを察し、努力しケアに活かしている又運営推進会議や家族会で来所時、意見要望等をミーティングで話し合い連絡ノートを通し検討し質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には入居者も多数参加し、直接要望を出されている。表現困難な入居者へも日頃の関わりから職員が推察し思いを引き出している。家族も訪問時や家族会の席で自由に意見を出している。自宅の様子が気になると要望を出された入居者に対して、家族の協力により定期的な帰宅が実現している。	入居者や家族の意見要望を表す場所として、ホーム担当者以外の公的機関などの説明も必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時に意見要望や提案等を出されたらコミュニケーションを図り問いかけたり聞いたりし反映させている。	運営者は日頃より職員とのコミュニケーションを図り、定期的な会合の機会を大切にしている。又管理者は日々のミーティングや申し送り時に職員の意見や要望を聞き運営者に報告している。気軽に意見を表す手段として、ノートを活用しては？のアイデアが出され職員は意見や要望をノートで管理者に伝え、それに対し管理者も丁寧に回答しホーム運営や職員間の連携に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし活かせる業務環境づくりに努めている。職員の定期健診も行って心身の健全育成にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し職員の段階に応じなるべく多くの職員が受講できるよう行なっている。又報告等は定例会で発表している、新人研修には数日間マンツーマンの体制をとり指導実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回玉名郡支部会や連絡会での研修事例検討を通じ意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め求めることや不安を理解しようと工夫している。又心身の状態や思いに向き合い受け入れの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。傾聴し状況等を把握し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行なっている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い協働しながら和やかな生活が出来る場面作りに声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子、職員の思いを伝達することにより、ご家族様と職員の思いが重なり協力関係が築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、美容院行き、1ヶ月に1回の間隔で定期的に行かれ楽しい交流がなされている、車椅子での送迎や車でも送迎を行なっている。	家族の協力を得ながら、馴染みの理・美容支援や盆・正月の帰省を支援している。ホーム職員も一緒に月命日のお供えもの購入に出かけたり、知人や親友の訪問、手紙・はがきのやり取りなど個々のかけがえのない人生や人・地域と継続した繋がりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を傾聴したり、相談に乗ったり楽しく過ごす時間に、気の合う物同士で過される場面作りになるように働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ転所される場合アセスメント・ケアプランや支援状況等を手渡しし、情報交換を行い行事への声掛けや継続的な付き合いが出来る様心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし把握に努めご家族様や関係者からも情報を得る様にしている。	入居時のアセスメントをはじめ、日々の寄り添いや傾聴により入居者の思いや意向を把握している。又、来訪時の家族や知人からも情報を得、本人本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との語らいの中、ご家族様や知人の来所時に少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し行動動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中、思いや意見を聞いて反映させている。アイデア等も反映している。(転倒防止策、徘徊外出策等)	毎月のケア会議で職員の意見や気づきを反映させ、必要に応じては医師・看護師の意見を取り入れたり、直接家族への説明を行うことにより安心に繋げている。	本人・家族との説明や話し合いについて最良の方法を職員間で話し合い、思いや意向を活かしたプランとなることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックス、個別ファイルを用意し状況把握とケア記録・情報共有を徹底し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応している、本人ご家族様の状況に応じて外泊・医院送迎支援にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心に暮らせるよう各機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、入居前のかかりつけ医との医療受診も受けられている、複数の医療機関との関係を蜜にしている。	入居前のかかりつけ医や母体医院など希望する医療機関を支援している。母体医院医師による月1回の受診や必要に応じたPTの往診やアドバイスを受け健康管理に努め、他科受診もホームで支援している。母体医師は診察以外でもホームを訪れ、健康状態の確認や語らいを大切にしており、入居者・家族の心の支援にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の健康管理や状況変化に応じ支援を行なうようにしている。相談助言と対応も行なっている。医療機関との連携体制の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人の支援方法に関する情報提供をしている、見舞い時に医師、看護師、ご家族様と話をする機会を持ち対応可能な状態となるべく早く退院可能になるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしつつご家族様と話し合い入居者様が安心して終末期を過していける様に取組む努力を行なっている。	入所申込みの時点でホームの方針を説明している。今後本人・家族の希望や医師・看護師・職員など関係者との話し合いにより、可能な状態であれば終末期対応に取り組むたいとしている。	必要に応じ早い段階での家族との再確認の機会や、重度化・終末期対応についての職員のメンタルにも配慮した研修会の実施が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが実践としては、全員の対応、対応出来ておらず隣接医院への応援を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成して定期的に消防署の協力を得て避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等訓練し全職員が出来る様に実施している。	火災避難訓練を年2回、消防署の協力のもと実施している。訓練後のアドバイス・指導を受け、避難が済んだ入居者の居室入口に、衣服を掛けることで“避難確認”とすることを決定した。今後もマニュアルの見直しや整備・日々火元確認などにより安全対策に努めたいとしている。	今後は近隣住民の参加を得ての訓練や、地震や風水害についての対策も検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で本人の気持ちを大切に考えさげないケアに心がけ自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	トイレや入浴の声掛け・誘導などプライバシーに配慮して行うよう心掛けている。入室の際のノックも確認された。呼称は入居時に確認しているが、ゲーム時は楽しさが増すよう、了解を得て下の名前で呼び実施している。	プライバシーについてのマニュアルの整備や勉強会により全職員が共有し、ケアに活かされていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決定した事を押し付けず思い、希望、関心、嗜好を見極め選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら自分のペースに応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が困難な方は職員と一緒に考え支援している。その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材をメニューに取り入れ食べてもらったり希望に添うよう作成し一緒に準備や後片付けも行っている。	旬の食材や汁ものは「だし」にもこだわり冷蔵庫の中を確認しながら、入居者の好みや意向を取り入れメニューを考えている。野菜の下ごしらえやランチオマツの準備など入居者のできることを一緒に行い、会話を楽しみながらの食事風景であった。食後、台所で手際よく洗いものに精を出される入居者もおられた。	食事中は十分な見守りの中入居者と職員が会話を楽しまれており、その時に応じたテレビの使用やエプロンの使用方法について検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記録し情報を共有バランスの摂れた食事と量、飲水による脱水防止に努めて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや就寝前の義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やサインを把握し排泄チェック表を使用し誘導排泄を促し支援している。	自立や声掛け・誘導による排泄をプライバシーに配慮しながら支援している。トイレに座って個々のペースでの排泄を心掛けている。ポータブルトイレは日々の洗浄と日光消毒により清潔に保ち気持ち良い排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を考慮して食材費工夫、主食に糸寒天を混入、繊維度の多い穀物、乳製品を取り入れたりもしており、身体を動かす(体操・レク・戸外散歩)機会を設け工夫し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のローテーションにより一人一人の希望タイミングに合わせてが困難、午後より順番を一応決めてゆっくり入浴してもらい満足感を得られている。	1日おきに週3～4回の入浴支援や体調、必要に応じたシャワー浴・足浴を実施している。入浴日を自室カレンダーに記入し確認される入居者もおられる。拒否の方へも無理強いせず、来訪時の家族の協力や言葉かけの工夫・タイミングにより支援し楽しい入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	考慮して休憩を取れる様支援しており就寝前、温かい飲み物を夕食後1～2時間経ってお出しして、飲みながらおしゃべりしたりして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋コピーにて内容把握出来る様にしている、服薬服用確認と変更時は状態変化にも気をつけ医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみ、食器拭き、生け花や経験や知恵を発揮する場面作り、外出や行事への参加楽しみごとを相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に応じ、季節感を感じ心身の活性に、時より戸外散歩で歌を皆で(ベンチに座ったり、車椅子にて)歌ったりしている。	個々の希望に応じドライブを兼ね食材などの買い物を楽しんでいるが、入居者の体力や体調などに配慮しながら、遠出の外出よりも日常的な近隣の散歩や、近場での楽しみごとの機会を大切にしている。区長さんをはじめ地元や家族の協力を得、近くの公園での桜の花見会は恒例になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を持ち外出や買物時に、支払れる様支援をして加齢と共に物忘れも目立ち、ご家族様や本人と相談の上、個々の希望に応じて事務所保管で、個々の金銭出納帳に記入し、領収書を添付し管理・支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話が外に聞こえない様に電話の設置場所を工夫して希望に応じてかけられる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に入居者様の作品や自室入り口に目印の似顔絵を飾ったり月ごとのカレンダー作成共に取り組み飾ったり生花や装飾を季節感を意識的に取り入れる工夫、季節ごと調度品を替える工夫をしている。	玄関入口やホーム内は季節の花や飾りもの、写真の掲示など和やかな雰囲気である。リビングは、入居者と職員がテーブルでの会話や、ソファに座ってテレビを楽しんだり、休息したりと寛げる空間である。台所・浴室・トイレなど換気や風通しに配慮し不快なく過ごせるよう配慮している。	新年度を迎えるにあたり、共用空間の整理や掲示物・置物などの見直しが必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子テーブルを置き居心地良く一人でも過せる場所作りを設けフロアでもソファ・テレビ・CD・ビデオを置き家庭的雰囲気作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込で居心地良く過せる工夫をしている、空き箱でリサイクルパット入れ等作成、見た目も工夫している。	家族の協力により、テレビやチェスト・座椅子・目覚まし時計など馴染みの生活用品が持ち込まれている。今後も家族と相談しながらADLに応じた家具や品々の配置を検討したり、小まめな換気や掃除により入居者の居心地よい居室作りに努めたいとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の家具の角々と出入口・便所入口とスポンジを貼り足元にマットを敷き転倒防止とベッドサイド支援棒を取付けたり場所の表示使用方法を貼り自分でパット等の交換出来る工夫と衛生面に考慮し自立支援をする。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人を大切に安心と尊厳のある生活を守り地域に密着し入居者様にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指すことを理念としミーティング時に唱和している。	玄関フロア各ユニットの目の高さに、理念を掲示しミーティング時に唱和するようにし職員一人一人が理念に沿ったケアが行なわれるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店街の夏祭りに参加しているまた敬老の日には地区の子供会が手紙とメダルを持って来てくれたり、夕涼み会には区長さんや老人会長さん近隣の地区の小学生等の多くの参加があった。	散歩や買い物に出かけ近隣の方に挨拶を交わすようにしているまた行事の案内は区長さんに配布して参加の呼びかけをしている地域の小学生や子供会等のふれあいが出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行なっている(地域の学生「職場体験」)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討内容について取組んでいる内容等について報告する様にしている。	2ヶ月に1回の開催となっておりホームの近況報告や入居者様の状況報告、ホームに対しての意見要望等について報告している。外部評価の結果については報告のみとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との連絡は運営推進会議時の報告等で取組んでいる。	運営推進会議時には必ず行政担当者の参加があり要望を伝えたり情報を得る様にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議の場で1階・2階入居者様の状態報告を行い身体拘束の可能性について確認している。	外出しそうな様子を察知したら止めずに、さりげなく声掛けをしたり散歩したりする様にしている。又職員は身体拘束に関して認識し身体拘束がないようケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1度行なわれるG/H連絡会支部会等に参加しホーム内でも研修会を行っている。また虐待が起こらないよう職員一人一人が気配りをし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会等に参加し理解を深める様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人及びご家族様に毎月必要な入居料や諸経費や起こりうるリスク・ターミナルケア・医療連携体制・行事への家族の参加等説明し同意を得る様にしている。又疑問点については何度も説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの不安・意見・苦情等は些細な事でも聞きその言葉や態度から思いを察する努力をし各ユニットで改善点を話し合い日々のケアや運営に活かしている。	家族面会時や年1度家族会を設け自由に意見を出せる様な雰囲気作りに留意している。また出された意見についてはミーティングで話し合い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回家族会を実施し何でも言えるような雰囲気作りに気を配っている。また出された意見要望等はミーティングで話し合い反映させている。	毎月の定例会議や申し送りの際に職員の意見や要望を聞けるように気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は入居者様の話し相手になり勤務態度等を把握している年1回健康健診を行なっている。資格取得費用の援助を行い資格に応じた役割を与え自己の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	G/H連絡会玉名郡市支部会や他協会の研修や学習会には順番に参加して定例会議で発表してもらい後日内容を定例会の議事録と通じて回覧し全職員が閲覧出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G/H連絡会玉名郡市支部会や勉強会・研修に参加する事により他の事業所の話聞く事でサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家庭訪問を行い心身の状況や生活状態等を把握し本人家族の不安や求めていることを聞き本人にとっての問題点を本人の立場で受け止められるよう努め信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでご家族様がどの様に関わって来たのかどんな苦勞がありどの様なサービスを利用して来たのか現在に至るまでの経緯について時間を取り相談相手として信頼して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思い状況等を確認して現在必要とされる支援について他事業所サービスも含め説明、紹介出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を敬う気持ちを全職員が持ち生活の知恵や文化、作法等について教わる機会も多くまた食後の団欒等話し合える場面の設定に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いや困り事等の話し合いをする機会を日常的に持つ様にして悩みや問題を共有し、共に協力しながら本人を支える事が出来る様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行きつけの美容室や地域の店に買い物等に出かけている。また知人友人等の面会もあり関係が途切れないように努めている。	馴染みの美容室やショッピング等の入居者様の希望に添えつ様に外出介助を行なっている。またご家族様や友人知人の面会の際ゆっくりと過して頂ける様、お茶だしを行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の相談に乗ったり入居者様同士の関係が悪くならない様職員が介入し調整役となり食卓の配置にも気を配りみんなで楽しく過せる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院の為に退所された方へのお見舞いや面会を行い家族にもホーム復帰の希望を失われない様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でそっと寄り添い関わることで相手の心境を読み何を求めているのかという事を捉え家族と共に本人様の希望に添う暮らし方を検討している。	入居者様との会話や、しぐさ等の日々の関わりの中からご家族様から情報の収集を行い希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中からご家族様との日常の関わりの中でそれとなく聞き取りが出来る様に気を配りながら情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人の生活のリズムを理解すると共に日々変化する状況を記載し今の暮らしについてや全体的な状態について把握出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様には日頃の関わりの中で要望や意見を聞き反映している。	入居者様やご家族様の意向や要望をもとに、毎月定例会議でケアカンファレンスを行い医師・看護師・職員で出された意見をもとに介護計画を作成し、また作成後はご家族様に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体表、身体状況チェック表で個人の状況を時間を追って記載している。又日々の暮らしや本人様の言葉・職員の気づき対処した事を記録し朝・夕の申送り時にカンファレンスを行い計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況やご本人様の状態に応じて必要な受診がある場合や外出希望時の送迎等も速やかな対応が出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様と地域とのさまざまな接点を見い出せる様にし地区の区長様等と話し合い相談を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけの医療機関への受診介助や送迎等をおこなっている。またご家族様の協力が得られる場合には受診をお願いして他の医療機関との関係を保つ様にしている。	本人様やご家族様が希望するかかりつけ医となっている。また専門的医療機関が必要な場合には、主治医から専門医への紹介、医療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、また隣接医院の看護師との状態変化等をこまめに取り常に入居者様の健康状態が管理できる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻繁に見舞うようにして状態の確認をしに行き医師・看護師・ご家族様とも情報を交換しながら早期退院してホームへの復帰を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて本人様・ご家族様・医師・看護師・ホーム職員を交え終末期の対応方針を話し合い全員で共有しまた変化があるごとに本人様・ご家族様の意向を確認し支援に繋げている。	本人様やご家族様の思いや意向を聞き医師・看護師・職員が連携を取り安心して納得した最後が迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には速やかに隣接の医院へ連絡して直ぐに医師・看護師の処置や対応が行なわれる様にしている。救急時の心肺蘇生法の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回隣接医院と合同で入居者様と一緒に避難訓練を行なっており消防署員の立会いのもと訓練に対しての指導・助言等を受け、消火器の取り扱いの訓練を受けている。	避難訓練の際、昼夜様々な時間を想定して毎回入居者様と職員と一緒に実施している。火を使う場合には火元の安全確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が入居者様のプライバシーや尊厳を守る接し方に配慮しトイレの声掛けもさりげなく誘導する等心掛けている。	入居者様の気持ちを大切にして、さりげないケアに心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて声掛けや対応の仕方を工夫し本人様に説明し納得した上での自己決定をしていただけるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに配慮しながら一人一人の一日の過ごし方に出来るだけ添えるよう食事時間や起床・就寝時間は各々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の馴染みの美容室で希望に合った髪型・毛染め等が出来る様に送迎支援を行っている。洋服は基本的に本人様に選んで着用して頂いている、自分で出来ない方は介助が必要な時に手伝う様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物を聞き、バランスの摂れたメニュー作りをしている。調理の下ごしらえ後片付け等も一緒に行い、又職員と入居者様が同じテーブルに座り同じ物を食べ、楽しく食事が出来る様配慮している。	旬の食材や新鮮な物を採り入れるようにし入居者様の苦手な食材がある場合は、別の物に替え工夫している。行事等にはお寿司や鉢盛等の配達を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体チェック表で毎食の摂取状況を記録し職員全員が確認できるようにしている。また食欲減退時は医師・看護師に報告し指示をもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の能力に応じて、見守りしたり介助を行なっている。また就寝時にポリデント洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人一人の排泄パターンを職員全員が把握しさりげなく声掛けをしトイレ誘導を行なっている。	自尊心に配慮し、身体機能に応じて介助をしている。また尿意がない入居者様にも時間を追って誘導する事によりトイレでの排泄が出来る様支援している紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討しながら使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れるようにしている、また軽体操や戸外散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様のその日の気分や入浴の希望を一人一人声を掛けて希望に出来るだけ合わせる様に調整している。	その日の希望を確認し入浴していただいている。また安眠の為に毎晩足浴をされる方も居られ一人一人の気持ちに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や活動量を考えてゆっくりと休息が取れるように食事やお茶の時間を調整している。また眠れない方には温かい飲み物を飲んでもらったり話をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容を記録し変更時は日付と薬名を記入し又介護記録に全員の薬と用量効能を記載した用紙を貼布し全職員が内容を把握して又副作用が心配される薬は送りノートに観察事項を明記している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事下ごしらえや洗濯物たたみ等の家事を中心としたお手伝いをお願いしている。又始めと終わりにはきちんと感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って外出買い物散歩の付き添いを行なっている。季節ごとに日帰旅行やコスモス・花しょうぶ・ふじの花見等を家族も参加され実施している又旅行先については各個人の意見を聞き出来るだけ希望に添える様にしている。	1階のフロアへ行き合同でレクリエーションをしたり天気の良い日は戸外散歩したり買い物に出かけたりしている又本人様の希望に添って懐かしい場所や行きたい場所等・ご家族様と御一緒に外出支援も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し本人様が管理出来る金額を持って頂き、外出や受診時には出来るだけ、ご自分で支払って頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人に合わせて電話をかけられる様にしている又自分でかける事が出来ない方には職員がダイヤルを回し取次ぎ介助を行っている。通話中はそれとなく席を外す様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビや音楽の音量には気を配り心地よい音量で聴ける様に配慮している又月ごとのカレンダー作りの飾付け色塗りを一緒にしたりゆず湯しょうぶ湯・おはぎ・さんま焼等の旬の食材を使い季節を楽しめる様に工夫している。	居間には季節に応じたカレンダーや生花や造花を置いたり行事等に出かけた時に撮った写真を飾ったりしている。入居者様の体調に合わせて温度調節を行っており居心地よく過ごせる様に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士のテーブル席を作り食後談話出来る様にしている又玄関ホールには椅子や小さなテーブルを置き生花や写真などで装飾した空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様本人様と話し合い家具や身の回りの物等、使い慣れた物を出来るだけ多く持って来て頂く様にお願いしている。居室には仏壇・マッサージチェア・ご家族様の写真を置いていただいている。	寝具やタンス・写真等、使い慣れた馴染みの物をご家族様の協力を得て持ち込まれ各々の入居者様の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって出来る事や理解出来る事や何に困っているのかとゆう原因を知り解決出来る様に職員で話し合い状況に合わせてながら環境を整えていくように工夫している。		